

生誕200年のクララと  
ロベルト・シューマン夫妻の芸術に触れる

プログラム

クララ・シューマンといえば、大作曲家ロベルト・シューマンを生涯支えた妻として知られていますが、自身優れた作曲家で名ピアニストであった事はあまりクローズアップされません。今日は今年生誕200年を迎えたクララ・シューマンにスポットを当て、ロベルトの名曲を交えながら、シューマン夫妻の芸術に触れたいと思います。ピアニストでピアノ教師であったフリードリヒ・ヴィークの娘として生まれたクララは、5歳の時から父にピアノを学び、1928年最初の演奏会を行うなど神童ぶりを発揮。父ヴィークからピアノを習っていたロベルトは、娘クララと激しい恋愛に落ちますが、父の猛反対にあったため、ようやくロベルトと結婚できたのは1840年30歳の時でした。その後二人でロシア、オランダ、ウィーンなどを楽旅します。結婚を転機としてロベルトの作品はピアノ曲中心から、歌曲、交響曲、室内楽へと拡がり、クララは夫ロベルトの良き理解者となっていきます。クララは優れた力量を持ったソプラノ歌手でもあり、結婚した1840年がロベルトの“歌曲の年”と呼ばれるのもクララの影響と言われています。「リュッケルトの詩による歌曲」は夫ロベルトと夫婦で分け合って作曲した歌曲集「恋のあけぼの」作品37の中にあり、3曲がクララの作曲です。「ユクンデ」の歌曲は1853年作。1845年作のスケルツォはロベルトの影響を受けて、これまでにはなかったロマン的な味わいがあります。ピアノ・ソナタは1989年に発見されたドラマティックな秀曲で、今日は発見者シュミットによる日本初演の演奏です。ピアノ協奏曲は15歳の時の作品ですが、華やかなピアノ技法、色彩的な管弦楽法など充実した内容を持った名曲です。今日はシューマン夫妻の音楽をごゆっくりお楽しみください。(中川)

\*\*\*\*\*

**クララ・シューマン (1819~1896):**

**「ユクンデ」からの6つの歌曲 op.23**

**第3曲“内緒のささやき”/第4曲“緑の丘の上で”**

ガブリエレ・フォンタナ(ソプラノ)/コンスタンツェ・アイクホルスト(ピアノ)  
(1996.5.16 シュヴェチンゲン、左側コンサートホールでのLive)

**「リュッケルトの詩による歌曲」 op.12**

**“彼は来た” op.12-2/“美しさを愛するのか” op.12-4**

**“なぜ、他の人に尋ねるのか” op.12-11**

マリヤーナ・リポヴシエク(メゾ・ソプラノ)/アンソニー・スピリ(ピアノ)  
(1998.5.25 ウィーン・ミュージックフェライン、ブラームスサールでのLive)

**ロベルト・シューマン (1810~1856):**

**交響曲第4番ニ短調 op.120**

リッカルド・ムーティ指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団  
(1993.5.24 ウィーン・コンツェルトハウス大ホールでのLive)

\*\*\* 休憩 \*\*\*

**クララ・シューマン (1819~1896):**

**ロマンス op.21~第3曲/スケルツォ 第2番ハ短調 op.14**

ウルリエ・ツァコー(ピアノ)  
(1984年 スタジオ録音)

**ピアノ・ソナタト短調**

アンネローゼ・シュミット(ピアノ)  
(1991.4.16 東京文化会館小ホールでのLive)

**ピアノ協奏曲イ短調 op.7**

伊藤 恵(ピアノ)/準・メルクル指揮NHK交響楽団  
(2006.6.9 NHKホールでのLive)